

STE (Shiroi Teaching Expert) の授業紹介 No. 3



白井市立白井中学校 佐野 正志 先生 (保健体育)

9月29日(水)、2年生男子の保健体育「ティーボール」の授業展開でした。「ドリル学習で身につけた技能をタスクゲームに生かし、攻撃と守備の工夫をしよう」というめあてで、技能向上を図った上で、それを生かしたゲームを行う授業でした。白井中学区はとても広く、小学生もバス通学や車での送迎が多く、放課後も公園やグラウンドで遊ぶこと等があまりできない環境です。その学区の生徒たちの技能をどのように高め、学びに向かう力につなげるか、様々な工夫をされていました。

工夫1 ドリル学習での教具の工夫 (ポイントをおさえた練習)

縄跳び、紙鉄砲を使っての投球フォームのチェック、キャッチボール(上から、ゴロ)、バッティングフォームチェック、水を少し入れたペットボトルスロー、ティーバッティングを短時間でローテーションしながら行っていました。

「ゴロは腰を低くして捕る、こんな感じ。」「もう少し足を開くとバットが振りやすいよ。」「ペットボトルを投げる時、最後に手首を返すこと。」など、生徒からのアドバイスの言葉がたくさん聞かれました。タブレットの活用も慣れたものです。



広告を折った紙鉄砲。



キャンディーボールをつるした教具。大きいので打ちやすい。タブレットですぐにフォームをチェック。



牛乳パックをテープで補強し、コーンの上に。打ち損じてもダメージ少。



水は3センチ程度。



佐野先生自作の消毒台。

工夫2 タスクゲーム (技術や戦略の能力育成を目的としたミニゲーム) のルールの工夫

守備チームの一人だけビブスを着けて「アウトゾーン」とし、その生徒にボールが返らないうちは、1塁とホームベースを往復して得点をかせぐ(今後三角、四角ベースに増やしていく予定)。バッターによって守備位置を変えたり、逆にすきを狙って打ったりしていくよう次回へと課題をつなげていく。ボールの大きさやバットの重さを自分で選んだり、それによって得点を変えたりしたいとのこと。



工夫3 どの生徒もヒーローに

このように実態をしっかりと捉え、教具や場を工夫することで「打ちたい」「勝ちたい」という意欲を高め、技能の差があっても、どの生徒もヒーローになれるようにしていきたいと話してくださいました。大山口中の本宮先生同様、見学者も役割をしっかりと果たしていました。

★佐野先生が大切にしていること★

- 実態に合わせて違う角度から切り込んでいくこと。下位の生徒も意欲的に取り組めるような教具の工夫や場の設定を意識し、「できた」「分かった」「気づいた」を大切にする。
- 集中し、効率よく効果的に技能が高まるように常に考えて指導する。(百回なんとなくやるよりも、十回正しい動きで練習。) 上位の生徒も教えることで学ぶ。